

平成 26 年度

事業計画書

平成 26 年

公益事業

[1] 美術館事業

① 展示事業—展覧会名とその概要—

(1) [館蔵] 春の優品展—歌・物語の世界—

平成 26 年 4 月 5 日 [土] —5 月 11 日 [日]

- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（5 月 5 日は開館）、5 月 7 日 [水]

館蔵品の中から、平安時代の「古筆」、鎌倉時代の「歌仙絵」、江戸時代の「物語絵」など、名品約 60 点を展示（会期中一部展示替あり）。『伊勢物語』など、和歌や文学が織り成す日本美術特有の世界を展観する。

特別展示予定＝国宝「源氏物語絵巻」4 月 29 日 [火] —5 月 11 日 [日]

(2) [館蔵] 近代の日本画展

平成 26 年 5 月 17 日 [土] —6 月 22 日 [日]

- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日

館蔵の近代日本画コレクションから、「花鳥画」を中心に、橋本雅邦、横山大観、川合玉堂、小林古徑、橋本関雪、安田靉彦、川端龍子、金島桂華など、明治から昭和にかけての近代日本を代表する画家の作品約 30 点を選び展観。宇野雪村コレクションの文房具も同時公開。

(3) [館蔵] 祈りの造形展

平成 26 年 6 月 28 日 [土] —8 月 3 日 [日]

- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（7 月 21 日は開館）、7 月 22 日 [火]

館蔵品の中から、奈良・平安時代の「古写経」、鎌倉・室町時代の「高僧の筆跡」「水墨画」「古版本」「古写本」など、仏教関連の名品約 60 点を展示（会期中一部展示替あり）。美しく荘厳された経文や、仏の救いを説く高僧の著作に人々の祈りのかたちを見る。

館内整備のため休館＝2014 年 8 月 4 日 [月] —8 月 29 日 [金]

(4) [館蔵] 秋の優品展—絵画・書跡と陶芸—

平成 26 年 8 月 30 日 [土] —10 月 19 日 [日]

- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（9 月 15 日・10 月 13 日は開館）、9 月 16 日 [火]、10 月 14 日 [火]

館蔵品の中から、平安時代の「古筆」、鎌倉・室町時代の「墨跡」、桃山・江戸時代の「絵画」「奈良絵本」「陶芸」など、名品約 60 点を展示（会期中一部展示替あり）。各時代を代表する日本美術の多彩な世界を展観する。

特別展示予定＝国宝「紫式部日記絵巻」10 月 11 日 [土] —10 月 19 日 [日]

(5) [特別展] 存星—漆芸の彩り—（仮称）

平成 26 年 10 月 25 日 [土] —12 月 7 日 [日]

- ・一般 1200 円／高・大学生 900 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（11 月 3 日・11 月 24 日は開館）、11 月 4 日 [火]、11 月 25 日 [火]

存星とは唐物漆器の一種。室町時代から「稀なる物」として珍重され、茶人たち羨望の品であった。現在は填漆を称することが多いが、古くは何が「存星」であったかは明らかでない。宋・元時代の彫彩漆など数々の名品を通じ、その実像の解明を試みる。（会期中一部展示替あり）。

(6) [館蔵] 茶道具取合せ展

平成 26 年 12 月 13 日 [土] —平成 27 年 2 月 15 日 [日]

- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料
- ・休館日＝毎月曜日（1 月 12 日は開館）、12 月 24 日 [水] —1 月 5 日 [月]、1 月 13 日 [火]

展示室に当館茶室「古経楼」「松寿庵」「富士見亭」の床の間原寸模型をしつらえ、館蔵の茶道具コレクションから約 70 点を選び展観する（会期中一部展示替あり）。茶匠の茶会記などを参考に道具の取合せを再現。

(7) [館蔵] 中国の陶芸展

平成 27 年 2 月 21 日 [土] —3 月 29 日 [日]

- ・一般 1000 円／高・大学生 700 円／中学生以下無料

- ・休館日＝毎月曜日

漢時代から明・清時代にわたる館蔵の中国陶磁器コレクション約 60 点を展観。戦国時代の計量道具から、唐三彩の壺、宋時代の砧青磁、明時代の青花・五彩まで時代順に展示し、2000 年にわたる中国のやきものの歴史を展望する。

② 調査・研究・保存事業

(1) 美術品の調査・研究

美術品の調査・研究を継続する。新規寄贈品等を含めて調査を進め、より正確なデータベースを構築する。刀剣に関しては、その全身押型を作る（高山諮問委員担当）。

(2) 蔵書・写真の整理

蔵書および写真の整理と登録を進める。

(3) 会議・学会・研修会への参加

美術品にかかわる各種会議・学会・研修会へ参加し、研究成果を発表する。

- ・ 全国博物館大会、全国美術館会議、私立美術館会議、美術史学会、東洋陶磁学会、漆工史学会、茶の湯文化学会、書学書道史学会、文化財保存修復学会（大会出席）。
- ・ 各種研究会および研修会参加（染織文化史研究会、茶書研究会、東京文化財研究所企画展示セミナー、日本書道史研究会、日本博物館協会研究会、墨蹟研究会、画賛研究会）。
- ・ 科学研究費助成事業への参加。

(4) 美術品の補修

蔵品のうちから、特に傷みの著しいもの（本体ならびに収納箱、包裂など）、出陳頻度の高いものを優先し、その修理を行う。本年度は一山一寧墨蹟「園林消暑」偈を修理する。

(5) 美術品の保存

今後の保存対策のため、所蔵庫および展示室の環境測定を実施し、種々データを集める。

また収納棚の一部を改修し、作品を保護するための包裂・箱を順次修理することで、より安全に美術品の保存・管理を行う。

(6) 美術品の貸出

他所の美術館・博物館への当館蔵品の貸出要望に対しては、趣旨・開催期間などを十分検討し、保存上の留意をしつつ、社会教育の発展・普及の観点から貸出を許可し、出品する。

(7) 博物館界・学会などへの協力

当館の加入する日本博物館協会、東京都博物館協議会、東洋陶磁学会、漆工史学会、全国美術館会議などの活動に積極的に協力するとともに、各種委員会や美術普及行事に関して専門学芸員の派遣など、当館の役割を果たしていきたい。また、受入れ態勢の許す限り博物館学および同実習教育を実施する。

(8) ホームページの運営

五島美術館の公式ホームページ (URL=<http://www.gotoh-museum.or.jp/>) を充実し、インターネット上での美術館や所蔵品の紹介、展覧会の広報活動等を展開するために、コンテンツの充実を目指す。

(9) 研究紀要の編纂

研究活動の成果を紀要としてまとめる。執筆者は学芸部を中心とし、資料紹介や調査報告を含めた専門性の高い論考に、美術館・文庫の活動報告を合わせた体裁とする。

(10) 日本伝統工芸展への協賛

公益財団法人日本工芸会他の主催する同展への協賛を通じ、日本における伝統工芸の健全な発展に寄与する。

③ 普及事業

(1) 友の会

茶の友・美の友・法人友の会などの普及、発展をめざし、美術講座・招待茶会・展示説明会を中心に会員に対するサービスの向上・改善に努める。

(2) ギャラリートーク（展示解説）—入館者対象

- ・ [館蔵] 春の優品展—歌・物語の世界—
----- 平成 26 年 4 月 9 日、4 月 17 日、4 月 30 日、5 月 2 日、5 月 9 日の 5 回
 - ・ [館蔵] 近代の日本画展
----- 平成 26 年 5 月 22 日、6 月 19 日の 2 回
 - ・ [館蔵] 祈りの造形展
----- 平成 26 年 7 月 3 日、7 月 17 日の 2 回
 - ・ [館蔵] 秋の優品展—絵画・書跡と陶芸—
----- 平成 26 年 9 月 4 日、9 月 19 日、10 月 16 日、10 月 19 日の 4 回
 - ・ [特別展] 存星—漆芸の彩り—（仮称）
----- 平成 26 年 10 月 30 日、11 月 20 日の 2 回
 - ・ [館蔵] 茶道具取合せ展
----- 平成 26 年 12 月 18 日、平成 27 年 1 月 8 日、1 月 29 日、2 月 5 日の 4 回
 - ・ [館蔵] 中国の陶芸展
----- 平成 27 年 2 月 26 日、3 月 19 日の 2 回
- * 上記展覧会の展示品を学芸部が解説する。

(3) 茶会（当館主催）—茶の友会会員対象

- ・ 第 1 回＝平成 26 年 11 月 13 日～16 日の 4 日間
 - ・ 第 2 回＝平成 27 年 3 月 12 日～15 日の 4 日間
- * 上記茶会に使用する美術品について学芸部が解説する。

(4) 陶芸講座（当館主催）—美の友会会員対象

- ・ 第 1 回＝平成 26 年 5 月 31 日・6 月 1 日 予定 定員（各日 40 名）
- ・ 第 2 回＝平成 26 年 9 月 20 日・21 日 予定 定員（各日 40 名）
- ・ 第 3 回＝平成 27 年 1 月 24 日・25 日 予定 定員（各日 40 名）

(5) 美の友会月例美術講座（当館主催）—美の友会会員対象

美の友会会員を対象に下記のシリーズを、連続講座（各月 1～2 回）として開催する。各回ともシリーズのテーマに即した主題を掲げ、当館の所蔵品やスライド映写をまじえてわかりやすい講座を行なう。

・書跡鑑賞シリーズIX「11 世紀の古筆」

仮名が平安時代の前期 900 年頃に完成し、現代まで多くの作品が残されている。本シリーズは、その仮名の中から、もっとも美しい姿が完成された 11 世紀の中ごろから 11 世紀後半と考えられる作品を取り上げる。その概略と特色を解説し、さらに読み方を学ぶ（8・11 月は休講）。
〈担当＝五島美術館学芸部 名兎耶 明〉

第 1 回	2014 年 4 月 5 日（土）	「歌仙歌合」
第 2 回	5 月 3 日（祝）	「深窓秘抄」
第 3 回	6 月 7 日（土）	「高野切第二種」
第 4 回	7 月 5 日（土）	「名家家集切」
第 5 回	9 月 6 日（土）	「寛平御時后宮歌合」
第 6 回	10 月 4 日（土）	「粘葉本和漢朗詠集」
第 7 回	12 月 6 日（土）	「如意宝集切」
第 8 回	2015 年 1 月 10 日（土）	「曼殊院本古今集」
第 9 回	2 月 7 日（土）	「関戸本古今集切」
第 10 回	3 月 7 日（土）	「亀山切」

・染織鑑賞シリーズX「日本染織探訪」

馴染みのある名称の織物もその歴史は意外と知られていない。本講座はそのような日本各地に残る伝統染織を辿るシリーズである。常陸国の結城紬、奈良の都は正倉院の渡来錦、東海道の土産になった「有松絞り」、日本の染色産業を支えた阿波の藍など。時代を超えて受け継がれてきた染織文化を探訪する（8・11 月は休講）。

〈担当＝五島美術館学芸部 佐藤留実〉

第 1 回	2014 年 4 月 12 日（土）	「畿内一大和国・正倉院の染織」
第 2 回	5 月 10 日（土）	「畿内一京都・源氏物語絵巻と宮廷装束」
第 3 回	6 月 14 日（土）	「東海道一常陸国・結城紬」
第 4 回	7 月 12 日（土）	「畿内一京都・辻が花」
第 5 回	9 月 13 日（土）	「東山道一出羽国・最上紅花」
第 6 回	10 月 11 日（土）	「西海道一肥前国・鍋島更紗」

第7回	12月13日(土)	「北海道—阿波国・藍」
第8回	2015年1月17日(土)	「東海道—尾張国・有松絞り」
第9回	2月14日(土)	「畿内—京都・友禅染め」
第10回	3月21日(祝)	「琉球—紅型」

・陶磁鑑賞シリーズIV「高麗茶碗」

「高麗茶碗」は、朝鮮半島で作られた抹茶を飲むための茶碗である。この講座では、高麗茶碗を種類別にとりあげ、各種茶碗の名品を画像で紹介し、産地・制作年代・技法や鑑賞のポイントを解説する(11月は休講)。〈担当=五島美術館学芸部 砂澤祐子〉

第1回	2014年9月27日(土)	「雲鶴・狂言袴」
第2回	10月18日(土)	「三島・刷毛目」
第3回	12月20日(土)	「堅手」
第4回	2015年1月31日(土)	「井戸」
第5回	2月21日(土)	「蕎麦・斗々屋」
第6回	3月28日(土)	「柿の蒂」

・漆芸鑑賞シリーズIV「存星クロニクル」

「存星」とは漆工品の分類名称の一つ。茶の湯では名物にもなり、「稀なもの」として珍重された。現在は一般に填漆(文様部分を彫り、色漆を充填する)の一種を呼ぶことが多いが、定義の境界が曖昧で、歴史的に見ても同じ意味で用いられておらず、人名と解釈される場合もあった。混沌たる様相の「存星」について、史料をたどりながらその年代記を編む(第1～3回は平成25年12月～平成26年3月に実施)。

〈担当=五島美術館学芸部 福島 修〉

第4回	2014年4月19日(土)	「彫彩漆と沈金」
第5回	5月17日(土)	「地文の賞玩」
第6回	6月21日(土)	「填漆と漆絵」
第7回	7月19日(土)	「存星クロニクル」

(6) 青少年向け普及講座

小学生や中学生を対象に、美術や日本文化への理解を深めるための各種普及講座を開設する。現在予定している講座としては以下の通り。

- ① 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 平成 26 年 5 月 5 日（祝）
- ② 「こども美術講座 日本画を知ろう」 6 月 8 日（日）
- ③ 「こども美術講座 お経の字」 6 月 29 日（日）
- ④ 「こども美術講座 お経の字」 8 月 3 日（日）
- ⑤ 「こども美術講座 王朝絵巻の世界」 10 月 13 日（祝）
- ⑥ 小・中学校等へ出張講義に赴く予定（日程未定）

（7）特別展関連行事予定

- ・〔特別展〕存星一漆芸の彩り―（仮称）（期間＝10 月 25 日～12 月 7 日）
レセプション＝平成 26 年 10 月 24 日（金）
記念講演会＝平成 26 年 10 月 25 日（土）他（期日未定）

（8）その他

- ・〔館蔵〕祈りの造形展（期間＝6 月 28 日～8 月 3 日）
講演会＝期日未定 講師＝赤尾栄慶氏（京都国立博物館）
- ・ミュージアム・コンサート
音楽を通じ、地域住民はじめ来館者に対して美術館の楽しみ方の一面を提示する。
平成 26 年 7 月 9 日（水） クァルテット・リゾナンツァによる弦楽四重奏
平成 26 年 9 月 25 日（木） 杵屋五三魅社中による長唄演奏
- ・東急電鉄株式会社「キッズプログラム」に参加予定 平成 27 年 1 月中旬頃

[2] 文庫事業

① 収集・保存事業

(1) 図書保存

- ・書庫内の参考書誌、図書資料等と和古書との分離収納作業を継続する。
- ・本年度も引き続き、所蔵資料の保存状態を調査し、修理・補修リストを作成する。
- ・書庫内の防虫、防塵、防湿、防災には万全を期す。新収資料の防虫には特に留意する。

(2) 図書修理

破損の恐れのある保存状態の悪い資料を、閲覧の頻度等を考慮しつつ修理する。

(3) 図書収集

研究・閲覧に資する参考資料（辞典、叢書、全集、記録類等）を購入する。

② 展示・公開・調査・研究事業

(1) 図書調査

元政庵瑞光寺等、他機関収蔵の古典籍資料調査を行なう。

(2) 図書閲覧

大学生以上の学術研究者を対象に閲覧業務を行なう。

(3) 研究発表

図書調査・研究活動等に基づき、書誌学、文化史学、国文学、美術史学、保存科学等の研究の成果を機関誌「かがみ」その他、学術専門誌に発表する。

(4) 出版物の編集・刊行・頒布・委託出版

- ・継続刊行中である「大東急記念文庫善本叢刊中古・中世篇」の第26回配本「伊呂波字類抄5」、第27回配本「伝記・願文・語学等」を刊行する。
- ・機関誌「かがみ」第45号を編集刊行する。
- ・既刊の講演録、マイクロフィルム等を頒布する。

(5) 普及

- ・各種団体（大学・研究会・図書館等）の要請による研究会、展示説明会等があれば、これに応じる。
- ・文庫刊行の出版物等を友好機関に寄贈する。また、友好機関、個人から受贈した出版物等は、閲覧研究に供するとともに、整理して保存する。
- ・各種団体等・個人から多数の撮影、出版、放映、翻印等の許可申請があるが、厳しく検討して許可する。

(6) 展示

五島美術館の展示に協力するとともに、他館からの出陳の要請は検討の上、貸し出す。

(7) 国等各種公共機関・団体への協力と職員の派遣

国や各種公共団体の研究会等への参加、助言等、文庫の事業運営上必要と認められる対外活動を行なう。

収支予算書

平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで

公益財団法人五島美術館

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	10,956,000	11,635,000	-679,000
公益事業収入	148,679,000	147,500,000	1,179,000
受取補助金	0	2,947,000	-2,947,000
受取寄附金	145,208,000	139,278,000	5,930,000
雑収益	70,000	30,000	40,000
経常収益計	304,913,000	301,390,000	3,523,000
(2) 経常費用			
事業費	315,064,000	313,644,000	1,420,000
管理費	26,393,000	26,228,000	165,000
経常費用計	341,457,000	339,872,000	1,585,000
評価損益等調整前当期経常増減額	-36,544,000	-38,482,000	1,938,000
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	-36,544,000	-38,482,000	1,938,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-36,544,000	-38,482,000	1,938,000
一般正味財産期首残高	1,088,663,000	1,127,145,000	-38,482,000
一般正味財産期末残高	1,052,119,000	1,088,663,000	-36,544,000
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	-65,208,000	-66,278,000	1,070,000
当期指定正味財産増減額	-65,208,000	-66,278,000	1,070,000
指定正味財産期首残高	4,017,169,000	4,083,447,000	-66,278,000
指定正味財産期末残高	3,951,961,000	4,017,169,000	-65,208,000
III 正味財産期末残高	5,004,080,000	5,105,832,000	-101,752,000

なお、定款第7条に係る、「資金調達および設備投資の見込み」については、平成 26 年度は「なし」である。